

# 日刊建設工業新聞

9月21日

水曜日

第17826号

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2011 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

## 宮古市に太陽光 発電街路灯寄贈

太陽エネルギー  
デザイン研究会



太陽エネルギーデザイン研究会(会長・伊澤日大教授)は20日、岩手県宮古市の山口公正副市長を訪問し、田老地区に太陽光発電街路灯を写真に寄贈した。

街路灯は、金属加工業

の菊川工業(東京都墨田区、宇津野嘉彦社長)が開発した独立電源方式の太陽光発電灯エコアベニユー。今月6日に市役所

田老支所前に搬入、設置されており、日没後自動点灯している。写真。

伊澤会長は震災直後、田老地区は何もない真っ暗な夜だった。当時と比べて電力の通った現在は不安も幾分軽減されたと思ふ。私どもの街路灯も安心と安全の一助になればと願っている」と述べた。

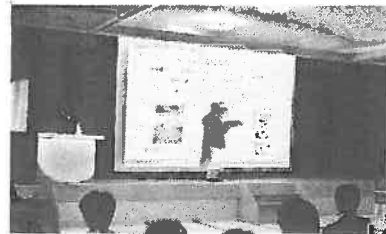
エコアベニユーを開発した菊川工業の宇津野社長も「街路灯設置の機会が増えることで、地元電気工事業がビジネスチャンスを得られればなにより」と語った。

同会は東日本大震災後の東北被災地支援として、太陽光や太陽熱エネルギー利用の復興街づくり提案を行っている。街路灯寄贈はその一環で、岩手県では大船渡市、陸前高田市にも防犯灯や街路灯の寄贈が決まった。今後宮城県でも寄贈活動を進めていく。

## ブリッジと回廊で避難経路

### 宮古市田老地区復興プラン提案

伊澤日大教授



日本大学理工学部の伊澤日大教授は19日、NPO田老(岩手県宮古市、大橋秀一理事長)主催の講演会で記念講演を行い、田老地区の復興プラン提案について説明した。写真。

提案は、伊澤教授が代表を務める復興都市モデル研究グループがまとめた。田老地区のケーススタディー。津波を「かわす」理念でハードを構築し、避難用防災ブリッジを地区内に回廊構造(防災コリドール)で整備するほか、斜面を利用した住居群(高地移転)、太陽光発電や太陽熱発電などのエネルギープラントを盛り込んでいく。

伊澤教授は「ブリッジと回廊によって避難経路を張り巡らす一方、それぞれの居住地から500メートル以内に避難拠点となるビルやスポットを置くことが重要。しかしそれ以上に、住民の皆さんが変化を理解し、受け入れ、時にはわがままなほどに主張をすることも忘れてはならない」と述べた。

講演会には地域住民など約80人が参加し、「斜面住宅をつくる費用の負担や切り土の処分を、狭い田老地区内でのように進めればよいのか」「復興都市は具体的に何年かけて完成するものなのか」「国道45号を堤防化して堤体上を道路として活用できないか」といった質問があった。伊澤教授は質問に答えながら、「皆さんで提案を議論していただき、さまざまの可能性をモザイクのように組み込んでいく。まず元気な地域の再生から進めていきましょう」と付け加えた。